

「平成24年度普及に移す成果」

イチゴ「いばらキッス」の定植株間は25cmが適する (品種登録出願公表中)

みんなで進めよう
茨城農業改革

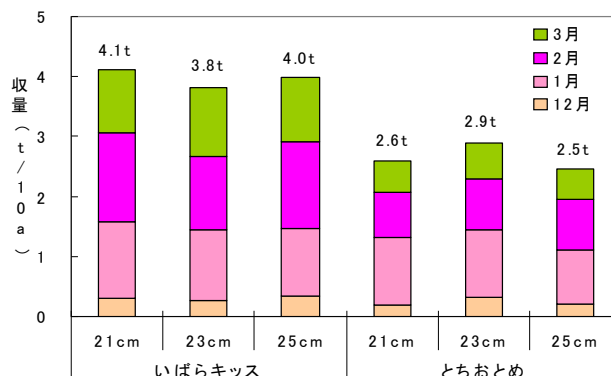
農業総合センター園芸研究所

イチゴ「いばらキッス」は草勢が旺盛なので、株間を広くすることが良品生産と収量確保につながります。株間21～25cmの範囲では10a当たりの収量に差はみられません。株間25cmで大玉の果実割合が増加し、果実形状が乱れたB品の割合が減少します。また、果実糖度は収穫期間を通して安定して高く推移します。



株間と収量

株間25cmの10a当たりの株数は(6,350株)で、株間21cm(7,570株)の84%に低下しますが、「いばらキッス」では株間が25cmでも月別の収量や10a当たりの総収量に差はみられません。



品種および株間の違いと時期別収量

*グラフ中の数値は、10a当たりの総収量を示す

株間と果実品質

「いばらキッス」における大玉果(15g以上)の割合は、株間25cmが最も多くなります。株間25cmで果実の形状が乱れたB品の割合が低下し、A品または正形果の割合が増加します。株間の違いと大玉果率および果実形状

品種	株間	大玉果率 ¹⁾ (%)					規格別割合 ²⁾ (%)		
		12月	1月	2月	3月	計	正形果	A品	B品
いばらキッス	21cm	100	68	57	31	54	64	25	12
	23cm	100	75	54	38	56	63	27	10
	25cm	97	76	58	39	59	64	29	7
とちおとめ	21cm	100	60	27	29	43	36	41	23
	23cm	97	59	38	22	45	32	40	28
	25cm	95	57	40	24	44	47	34	19

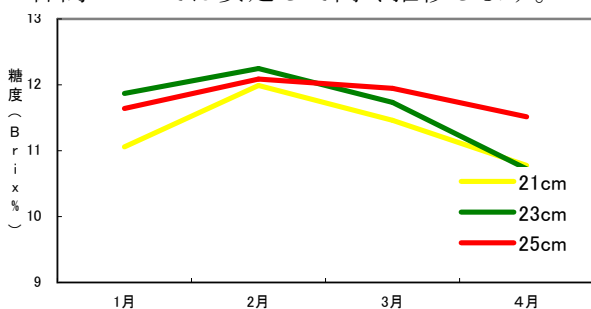
1) 2L (15g) 以上の果実割合

2) 7g以上の果実割合、正形果：品質形状良好なもの、A品：形状がやや劣る11g以上のもの、

B品：形状が劣るもの(茨城県青果物標準出荷規格に準ずる)

株間と果実糖度

収穫期間を通して株間21cmで低く推移し、株間25cmでは安定して高く推移します。



「いばらキッス」における株間の違いと果実糖度の時期別推移

栽培上の留意点

「いばらキッス」の栽培にあたっては、花芽分化を促すため、8月末頃に苗の窒素濃度を「とちおとめ」より低下させることが大切です。

花芽分化が遅れると年内収量の減少につながります。8月末に葉柄中硝酸イオン濃度を60ppm程度まで低下させ、葉色がやや黄色みを帯びるようになるのが理想的です。

<問い合わせ先：園芸研究所野菜研究室 Tel 0299(45)8341>